

ひび割れ含浸樹脂注入工法

標準施工要領書

2019年11月

デンカ株式会社

インフラ・ソーシャルソリューション部門

特殊混和材部 リニューアルソリューショングループ

1. 概 要

本標準施工要領書は、コンクリートのひび割れ部におけるひび割れ含浸補修工法に関するものであり、対象とするひび割れ幅は0.2mm以下とする。

1-1 使用材料

ひび割れ含浸補修材

●デンカハードロックⅡ デンカDK550-003

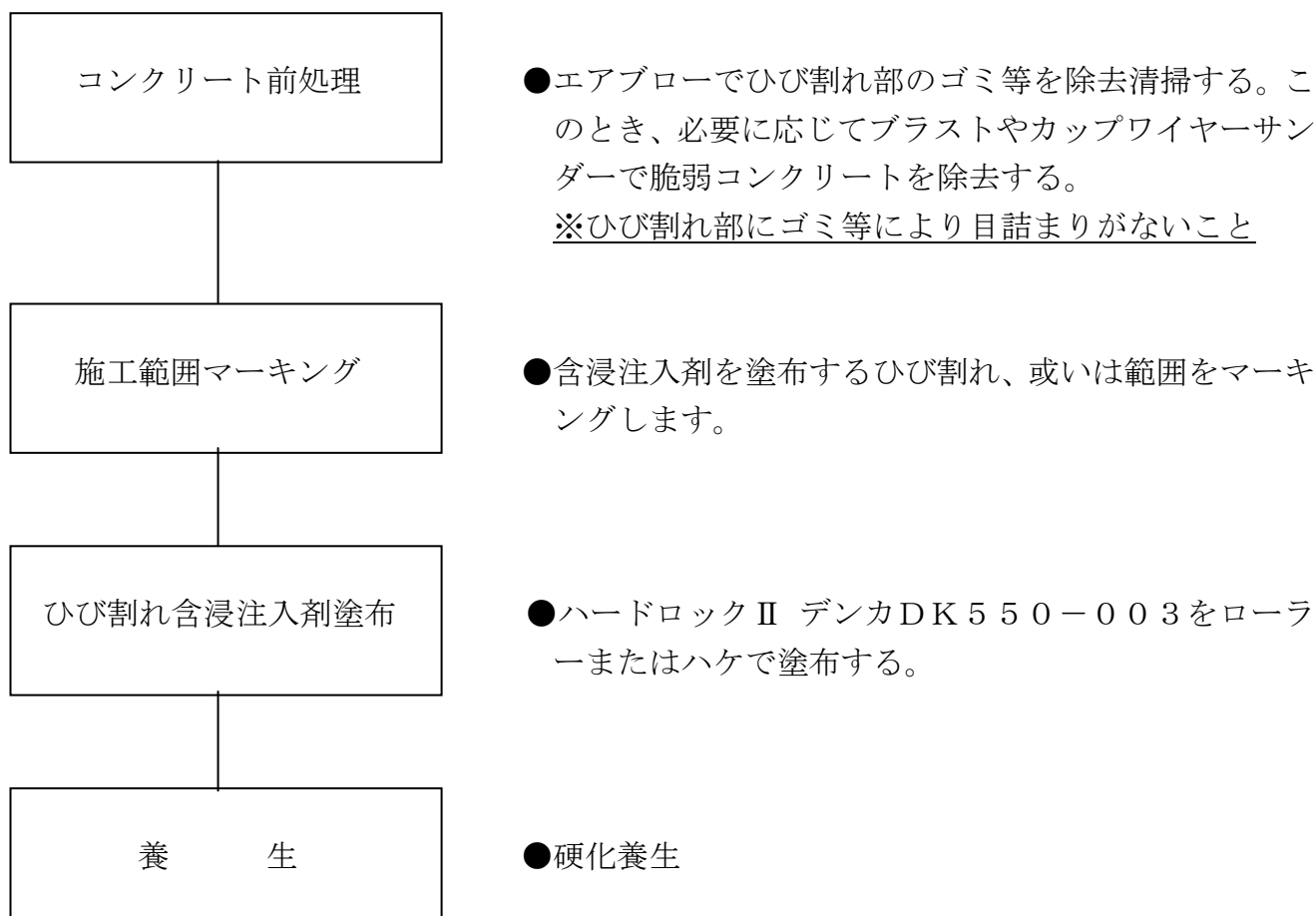
※ ひび割れ含浸材用は毛細管現象により含浸するものである。

※ 施工温度に応じて、夏用（S）、春秋用（R）、冬用（W）を使い分ける。

2. 修繕の施工フロー

修繕施工フローを以下に示す。

微細なひび割れを「ひび割れ含浸補修材」デンカ DK550-003 で補修する。



3. 作業方法

- (1) エアブロー等によりひび割れ部を洗浄する。
※必要であれば、サンダー・ブラスト処理等によりコンクリート表面を清掃、脆弱部を除去する。
- (2) デンカDK550-003のA剤及びB剤を重量または体積ではかり取りローラーバット中で混合し、ハケやローラーで塗布する。
- (3) 塗布量の目安はひび割れ部に吸い込みがなくなるまでとし確実に含浸させます。
- (4) 作業は、吸い込みが激しく乾燥コンクリート色を示す部分には2～3回再度塗布することとする。

※脆弱コンクリート層は全除去が標準であるが、はつり落とし厚みが大きく、構造体強度に影響を及ぼす可能性がある場合には、はつり落としの程度を施主等と協議の上決定するものとする。

- (1) 通常のハンディタイプのエアブローや高圧空気を利用したエアブローを使用するものとする。
- (2) 平滑面に対してはローラーが、凹凸面に対してはハケを用いる。両者とも耐溶剤製のものを用いる。デンカDK550-003は粘度が低いのでローラーは短毛のものが作業しやすい。
- (3) 塗布量は、ひび割れ深さ、ひび割れ幅により変動するが、標準として 0.2 kg/m^2 とする。
- (4) 樹脂が低粘度のため1回の塗布で規定量を塗ることが出来ないことがあり、またコンクリート部位によって染み込みやすさが異なるので染み込みの大きい部位には2～3回以上塗布を繰り返す。

4. 安全

施工に際しては以下の事項を遵守すること。

4-1 施工前に

- 使用前にSDS等で材料に関する取り扱い方法・安全性を熟知する。
- その他消防法危険物第四類の取り扱いに関する注意事項を守る。

4-2 作業中の服装

- 作業中は耐溶剤手袋・眼保護ゴーグル、防塵／溶剤マスク等の適切な保護具を必ず着用する。
- 吹き付け施工の際には全員が全身を覆う溶剤非浸透性のつなぎ作業服を着用する。

4-3 現場の安全管理

- 作業中は火器を使用しない。喫煙は行わない。
- 蒸気が滞留しないように換気・送風を行う。
- 吹き付け作業中は作業員、監督者等、風下に立たないように注意する。

4-4 樹脂材料が身体へ接触した場合等

- 気分が悪くなった場合には、風通しの良い場所で安静にする。
- 皮膚に付着した場合には、直ちに石けんでよく洗い落とす。
- 目にはいった場合には、流水でよくすすぎ落とし、その後医師の診断を受ける。
- 誤飲した場合には、直ちに吐き出させ、その後医師の診断を受ける。

※これらの場合に備え、水道場所の確保や清水を現場へ持ち込むことが望ましい。

4-5 材料の廃棄

- 硬化した樹脂材料は産業廃棄物として認可を受けた産業廃棄物処理業者へ処理を依頼する。
- 余った樹脂材料は少量ずつ硬化させ上項と同様に処理する。

4-6 その他

- 不明な点はメーカーに問い合わせること。

以上